

嶺北森林管理署管内におけるニホンジカ生息調査及び捕獲・駆除対策について

四国森林管理局 嶺北森林管理署
森林技術指導官 鶴内 和典
業務グループ 筒井 達朗

1 課題を取り上げた背景

近年、ニホンジカの生息頭数の増加に伴い、食害等による造林木等への被害は増加傾向にあり、農林産物への被害が深刻な状況となっており、地元市町村等からもニホンジカ被害対策の取組が求められています。

このような中、嶺北署では管内全域で職員によるニホンジカの見撃情報、センサーカメラの設置等これまで収集したデータを活用し、職員、委託により囲いわな、箱わなを設置し、捕獲効率の向上、捕獲数の増大を目指しているためその取り組みについて報告します。



人工林 被害状況

2 取組の経過

平成23年度から平成25年度にかけては委託事業により、平成26年度からは職員による有害鳥獣捕獲を実施しています。

職員による有害鳥獣捕獲の資格は、平成26年5月、平成27年5月に「国有林野における有害鳥獣捕獲要領」に基づく研修を実施しました。

わな等の設置については、委託事業は箱わな（ユーチカ製）を、職員の場合は囲いわな（森林技術・支援センター開発「ヤマサ製」と獣害防止保護ネットによるもの）、及び箱わな（ユーチカ製）を使用しています。

平成27年11月から長沢山236林班内に「トラロープ」及びセンサーカメラを設置し、ニホンジカの動態を定点調査するとともに、12月6日には、

定点調査箇所において、いの地区猟友会本川支部に協力依頼し、狩猟を実施しました。

平成28年1月には一ノ谷山208林班から根須木藪山230林班にある国有林と中江産業土佐事業所の社有林で「ニホンジカ食害防止対策に関する協定」を締結し、有害鳥獣（ニホンジカ）捕獲・駆除に取り組んでいます。



協定区域

3 実行結果

①シカ捕獲の実績

- ・年度別森林事務所別（市町村別）、わな別シカ捕獲の実績

②長沢山236林班内でのニホンジカ動態調査

- ・センサーカメラによる把握状況
- ・いの地区猟友会本川支部による狩猟

③中江産業土佐事業所との協定

- ・事業所の取組事例紹介

4 考察

ニホンジカ食害による農林産物への被害を減少させるため、全職員一丸となって、署管内全域で囲いわな、箱わな等により有害鳥獣（ニホンジカ）を捕獲し、1頭でも多くの頭数調整に努めていきたいと考えています。

そのためにも、日々のニホンジカ見撃情報、捕獲実績等についても、県市町村（行政機関）、猟友会、地元にも情報提供、意見交換するとともに、ニホンジカの生息及び移動経路等の把握については研究機関等の調査結果、意見等を踏まえ、嶺北・仁淀流域、高知流域等大きな区域の中で、効率的に捕獲できるよう努力し、石鎚山系への被害拡大を食い止めるよう取り組んでいきたいと考えています。